

「なぜ、学ぶのか」という問いに答えられる生徒の育成を

6月号特集の座談会において、京都市立西京高校の岩佐峰之先生が言われているように、「なぜ、学ぶのか」という質問に「社会に貢献するために学んでいる」と答えられる生徒を育成することが重要だと考えた。そうすることが、学びの動機を持ち続け、学習を継続できる生徒の育成につながると感じている。

〔宮崎県立小林高校・宮野原章史〕

学びを支える精神力を培う様々な経験

6月号の「ハートをこがせ！」を読み、かきた同好会の活動に没頭できる力は、学びを支える精神力を培う一助でもあると思った。ワクワクする体験をして、想像力が膨らみ、文化の価値を実感する良い機会となるだろう。そうした伝統競技を経験し、習熟を目指す方は、いま一度見直されてもよいと思う。

〔兵庫県・私立神戸国際中学・高校・徳岡努〕

教師は、「生徒が出来ること」をまず考えるべき

6月号の「指導変革の軌跡」で紹介された石川県立金沢北陵高校の記事で、「生徒の力はこの程度だろう」と、教師が生徒の限界を決めつけるべきではないと改めて実感しました」という言葉が印象に残った。現場では、時折、生徒が「出来ない」と言っのを耳にする。課題はもちろんあるが、「出来ない」のではなく、教師が「出来るようにさせていないのではないか」と思うし、教師は「出来ることは何か」を先に考えるべきだと思う。改めて、

Reader's VIEW

Volume 3

読者のページ

読者の先生方からのご意見を紹介します

指導側の原点を考えさせられた。

〔埼玉県立大宮光陵高校・久保島昌一〕

生徒がオープンキャンパスでの体験を語り合う場につなげたい

6月号の「改良！ 指導ツール ビフォーアフター」で紹介された、「2年生・夏休み前後 オープンキャンパス指導ツール」を使ったら、オープンキャンパス参加報告発表会やオープンキャンパスの体験を語り合う場につなげていく点を参考にしたい。教師の指導により、オープンキャンパスを単発的な行事に終わらせないよう実践されていることこそが、今回のこのコーナーから学ぶべき点だろう。

〔滋賀県立草津東高校・堀浩司〕

段階を踏んだ「高大接続改革実行プラン」に

6月号の「半歩未来を考える教育オピニオン」の記事における、東京都立西高校の宮本久也校長と岡山県立和気閑合高校の香山真一校長の対談は、高校の実態をよく踏まえた内容であり、「高大接続改革実行プラン」に高校現場がまだ追いついていない現状が浮き彫りになっていった。2人も指摘しているように、段階を踏んだ改革にしてほしいと痛感している。

〔埼玉県・匿名希望〕

教師川柳

我が想い生徒の笑顔それひとつ

香川県私立香川県大手前高校・佐藤浩章

編集後記

◎今号の取材を通して、どの先生方も「生徒の未来のため」にご指導されていることが分かりました。新しい入試に向けた指導を終着点とするのではなく、その先の、高校卒業後も「自ら生き抜いていける力」の育成の重要性を感じました。特集の学校事例からも、入試改革は意識しつつも、生徒にどのような人材になってほしいのかといった、生徒の未来を見据えたお取り組みを実践されていることが感じ取れました。新しい入試に向けて指導の内容が一部変わったとしても、「生徒の未来のため」の指導は、不変的なものなのだと思います。(廣田)

『VIEW21』高校版はウェブサイトでもご覧いただけます！

本誌の最新号、及びバックナンバーは、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご覧いただけます。誌面のPDFや「改良！ 指導ツール ビフォーアフター」の図版もダウンロードできます。ぜひご利用ください。

詳しくは

VIEW21 高校版

検索

<http://berd.benesse.jp/magazine/kou/>



VIEW21 8月号 Vol.3

2015年8月21日発行

発行人 山崎昌樹
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 凸版印刷(株)
 編集協力 (有)ペンダコ
 執筆協力 中丸 満、二宮良太、長谷川敦
 撮影協力 荒川 潤、川上一生、谷口 哲、藤木潤一、ヤマグチイッキ
 イラスト協力 伊藤美樹

VIEW21編集部
 〒163-0411 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング13階

©Benesse Corporation 2015

VIEW21

2015
October
10月
Volume 4

次号は
10月16日発行(予定)
『VIEW21』高校版は
年6回の発行です